



子ども大学学生新聞

第40号
子ども大学
かわごえ新聞部

暮らしを良くする人を選ぼう

池上彰先生 「選挙と民主主義を考える」

二〇一七年一〇月七日(土曜日)午後二時から川越南文化会館のホールで、ジャーナリストで東京工業大学教授の池上彰先生による「選挙と民主主義を考える」の授業がありました。出席者はいく人も多く、四年生六四人、五年生五六人、六年生五人の計一七一人でした。先生から次のようなことを教わりました。衆議院議員(しゅうぎいんぎいん)の任期は四年ですが、総理大臣(そうりだいじん)が内閣(ないかく)のえいきょう力を保つために、任期途中で衆議院を解散できるのだ、だから二年から三年ごとに



解散総選挙をすることが多いそうです。解散すると衆議院議員全員は無職になります。そこであらためて選挙に出て国会をめざします。

参議院(さんぎいん)は任期六年で、総理大臣が解散を命じることはできません。半分ずつ選挙し、任期いっぱい議員をつとめることになりました。選挙をする理由は、私たちの暮らしに欠かせないことを決めるためです。火事になったとき、火を消してくれる専門の人が必要ということで消防署をつくらうと、選挙で選ばれた代表が国会で法律を決めました。警察官も必要ですね。そういう暮らしに必要な専門家を税金で雇うわけです。

安倍総理大臣がなぜ今、総選挙をやるかというと、来年になって、もしアメリカと北朝鮮が戦争をしていたら選挙をやるので、今のうちにやっておきましょうと考えたからだそうです。選挙の日程は大安(だいあん)の日曜日を選ばれやすいことから、池上先生はかなり前から、大安の一〇月二日に総選挙が行われ

ることを予想していたそうです。

(田本 周記者 武蔵野小6年、河原美佐子記者 中央小4年)

ちゃんとした人を選び方を身につける

二時間目の授業では、池上先生がみんなの質問に答えてくださいました。

ぼくが「候補者が選挙のとき、『こんなことをやりますよ』と言っても、その約束を守らないことがあります。それは、うそをついているのと同じことなんじゃないでしょうか」と聞くと、先生は「公約を履行するには、選挙に勝って多数にならないとできないこともあるので、やろうと思っていなければ、できなかったのか、人気取りのため公約だったのか、見極める力をつけて判断するのは君たちだよ」とおっしゃいました。

また、投票について話がありました。日本人はみんな読み書きができるので、投票用紙に当選させたい人の名前を自分で書いて投票箱に入れますが、読み書きのできない人が多い国では、投票用紙に候補者(こうほしき)全部の名前が書いてあったり、候補者のしるしの動物や花などのマークが描いてあって、それに○をつけて投票箱に入れるそうです。日本のような投票の仕方は世界でめずらしいそうです。自分がだれに投票したかを他の人に知れない「ひみつ投票」が、ど

れだけ大切かも分かりました。私たちが有権者になったとき、ちゃんとした人を選ぶように、今からしっかりと勉強して、いろいろな知識を身につけていきたいと思いました。

(堀 颯斗記者 高階西小6年、堀 綾花記者 高階西小4年)

☆池上先生にインタビュー

読書が趣味でした

Q 子どものころのしゅみはなんですか?

A 読書です。よみずぎてしかられていました。Q どうして読書が好きだったのですか。



A 雨の日や学校から帰ってからのほかにすることが少なかったからです。先生が小さいころ好きだった本ってどんな本ですか?

A 『君たちはどう生きるか』吉野源三郎作と『ロビンソン・クルーソー』グニエル・デブオー作などです。

外国で気をつけていること

A 先生が外国に取材に行った時、一番気をつけていることはなんですか? 自分の身を守ること、取材した国のことを日本に正しく伝えることです。

Q 先生が行った国の中で選挙制度が一番いいと思った国は、どこですか? それぞれの文化があるので、これだつ!といえる国はありません。先生の今の夢は何ですか。

A みなさんに世界のことを教えて、次の時代に生かしてもらおうことです。(塩野 真記者 川越西小4年、吉田真

奈記者 勝呂小5年、新井悠希記者
大東西小5年

☆記者の授業感想

母と投票所に行きました

◇長坂月名記者 高階北小4年
僕は選挙には全く興味がなかったのですが、池上先生の話聞いて少し興味がでて、一〇月二日の選挙の投票日に投票所にお母さんに初めて連れて行ってもらいました。

僕は選挙というのは、AKB48の選抜総選挙みたいに、会場に座って、みんなの前で発表するのかもしれないけれど、実際はたったの五分くらいで終わってしまい、びっくりしました。

お母さんが投票するときに、実際の選挙の仕組みを細かく教えてもらいました。僕には少し難しく理解できなかったけど、選挙ってこんなふうにするんだということがわかりました。

家に帰ってから選挙の結果が気になったので、池上先生が出ているテレビ東京の番組を見て、お母さんとお兄ちゃんに説明してもらいながら今回の選挙がどんな結果になったのを見ました。

僕はあと八年たたないと選挙権はないけれど、それまでにもう少し選挙や政治について勉強していきたいと思います。

僕の質問に答えた池上先生

◇森下遙稀記者 南古谷小5年

池上彰先生の授業は、みんなの意見を聞き、質問に答えるというものでした。

僕も手を上げて質問しました。「総理大臣があまりにもひどかった時は、やめさせることはできるのでしょうか」。先生は「不信任案でやめさせることができ

ます」と答えてくださいました。

一時間目と二時間目のどちらも、学生の質問に熱心に答えてくださいました。僕はみんなの質問に全部答えてくれる池上先生に驚きました。

池上先生がテレビに出ているのを見ると、興味がでて、お父さん、お母さんと一緒に選挙に行ってみたいと思いました。

◇小畑美宙記者 高階西小6年

私は、池上さんの授業を受けて、政治について初めて知ったことが三つありました。一つ目は、衆議院議員と参議院議員がいて、働く長さが四年間と六年間とちがうことです。二つ目は、候補者に同じ名前の人がいたら、得票数を割ることです。三つ目は、選挙の時、うそをついて



ている人がいることです。でも、うそをつかない人もいること、忙しい中、政治について教えていたのだ、いろいろ

分かって、たのしかったです。
しっかり勉強をすれば

◇秋山花那記者 鶴ヶ島二小6年

私は池上先生の話聞き、選挙のことがとてもよくわかりました。テレビで見ますが、衆議院と参議院は、ただ二つに分かれただけかと思っていました。しかし衆議院は二五歳から、参議院は三

〇歳から出馬してよいということ、また衆議院は必要があれば何度も選挙で入れ替わりますが、参議院は三年ごとに半分ずつ代わるそうです。

私はまだ一八歳になっていないので投票は出来ませんが、出来るようになったらしっかり見て、いい人を選んで投票したいです。

◇上杉 環記者 高階小6年

私は「なぜ選挙で票数が小点数以下になるときがあるのか」という疑問にいちばん興味を持ちました。なぜなら、まえばテレビで選挙報道を見たとき、小点数以下の票があつて疑問に思ったからです。池上先生は「二人の票数を比べて、一票を同じ割合に分ける。小点数以下第三位で四捨五入する」と、とても分かりやすく教えてくださいました。

あと六年で投票に行けるようになるので、しっかり勉強しておこうと思いました。

なぜいま総選挙をするのか

◇広瀬裕人記者 高階小4年

池上先生の授業で、衆議院と参議院のことや民主主義について教わりました。初めて知ったのは、衆議院の任期は四年ですが、途中で解散があり、参議院は六年ですが、解散がないことです。衆議院が解散し、選挙が終わる、特別国会が開かれた後、どうなるかが気になりました。

◇藤山七海記者 霞ヶ関南小6年

私は池上彰先生の授業を受けて、政治は知らないことだらけで、とてもむずかしいなと思いました。でも、すごく勉強になりました。また、ニュースは、めずらしいからニュースなると聞いて、「あー、たしかに」と、なっとくしました。政治

の世界は、とても興味深いなと思いました。

お金のからない方法を

◇高橋りり子記者 霞ヶ関南小6年

池上先生のお話を聞いて、私が一番驚いたことは、選挙に出馬するためだけに多額のお金がかかるということです。私だったら、そのお金を、選挙に出るためではなく、他のことに使いたいと思います。例えば、世界中で貧困にあえぐ人たちのために募金をしたり、国内でも突然の災害で被害を受けた人たちを支援するための資金として使います。そうすることで、自分の出したお金が直接世の中のために役立つっていると実感できるからです。

国民が幸せになる方法の一つとして、政治があると思います。それを表現する政治家になるために、あまりお金のかからない方法を考えてほしいです。

◇奈村晴冬記者 高階小6年

ぼくは池上先生の授業を聞いて、なぜ北朝鮮はICBMを撃つてくるのか分かりました。北朝鮮が攻撃される前に国を守る自信がないからだそう、おどろきました。今回で最後の池上先生の授業を聞いて、とてもよかったです。

良い政治家を見極める

◇杉山絢音記者 高階西小4年

わたしは、まだ学校の授業で、せんきよについて勉強していません。しかし、投ひよう用紙に候補者の名前以外のことを書く、無こうになることを知って、おもしろいと思いました。これからの日本を良くするには、わたしたちが勉強して、良い政治家を見極めることが大切だと分かりました。